

令和2年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価総合シート

項目	重点目標	回答者	アンケート項目	目標指数	今年度	昨年度	成果と課題	改善策・向上策			
				1+2(%)	1+2(%)	1+2(%)					
1 学習指導 「学ぶ子」	「確かな学力」	読書習慣の定着	教職員	・読書	90	83	92	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員会が共通の読書カードを発行し、多く本を読んだ児童に多読賞を出すことで、読書を啓発した。</li> <li>・朝読書が15分から10分になり、準備の遅い子が、読めなくなった。</li> <li>・コロナ対策のため、図書室の本の貸し出し時間が減り、借りに行けない児童が増えた。また、読み聞かせも行えなかったため、本に触れる機会が減った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員会の活動(読書の木、多読賞など)をアピールし、本への興味を高める。</li> <li>・朝の読書時間に図書委員会が発行に行く。</li> <li>・親子読書など家庭での読書習慣が身につくような取り組みを実施する。</li> </ul>		
			児童	・読書	90	85	86				
			保護者	・読書	90	58	55				
		授業内容の工夫と改善	教職員	・わかる授業	90	100	100			<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がわかる授業をテーマに授業改善を行ってきた。今年度はデジタル教科書の導入によって、より視覚的に分かる授業が行えるようになった。</li> <li>・振り返り活動を通して、児童が自己の成長を実感した。また、周りと共有することで、学習内容が深まったと考える。</li> <li>・一人一台PCが導入されたが、時期が2月だったため、教材研究が十分にできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一台PCを使った実践を共有し、学年の系統的な学習計画を立てる。</li> <li>・郷の子テストを継続して行い、基礎基本の定着を高める。</li> <li>・より自分の意見を言いやすい学級づくりを心がけ、ポジティブ教育を行っていく。</li> </ul>
				・意見や考え	90	92	88				
			児童	・授業理解	90	96	94				
				・話の聞き方	90	98	97				
				・自分の考え	90	90	87				
			保護者	・授業理解	90	89	90				
	家庭学習の習慣	教職員	・家庭学習	100	90	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家で過ごす時間が増え、児童が学習に向かう時間が確保できるようになった。各学年の実態に合った家庭学習の課題を出すことで、児童が取り組みやすくなった。</li> <li>・自ら課題に取り組む児童が増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人にあった学習課題(自主学習)を出すことで、より自ら取り組むようにしていく。自主学習の方法を具体的に示し、より自分で自分の力を伸ばせるような児童を育成していく。</li> </ul>			
		児童	・家庭学習	90	93	92					
		保護者	・家庭学習	90	75	68					
2 生活指導 「素直な子」	「豊かな心」	あいさつ・正しい言葉づかい	教職員	・あいさつ	90	87	56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内でのあいさつは大変大きくなってきた。しかし、校外においては、声が小さくほほ挨拶ができていない。</li> <li>・場に応じた言葉遣いができている。特に高学年は、教員や来客などに敬語で話すことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶ができていない児童を朝礼や集会などで紹介していく。</li> <li>・高学年が手本となり、正しい言葉遣いを推奨していく。</li> </ul>		
				・言葉遣い	90	100					
			児童	・あいさつ	90	92	93				
				・言葉使い	80	97	98				
		保護者	・あいさつ	90	80	80					
			・言葉使い	80	78	76					
	「素直な子」	「きまりを守り安全な生活」	教職員	・楽しい学校生活	100	96	96	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、保護者が学校に来る機会が少なかったことで、子どもたちが楽しく活動する姿を見ることが少なかった。</li> <li>・インターネットやSNSの使い方について、保護者の意見も聞きつつ、ともに考える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートルールの改善が必要となる。</li> <li>・情報モラル教育を学期ごとに行い、SNSの使い方や情報モラルについての学習する機会を増やす。</li> <li>・にこいきチェックなどを利用して、インターネットの使用を保護者と考える機会を作る。</li> </ul>		
				・廊下を走る	80	83	72				
				・情報モラル教育	80	70					
			児童	・楽しい学校生活	100	98	97				
				・掃除	90	98	96				
				・きまりを守る	100	98	97				
				・廊下を走らない	90	95	94				
			保護者	・楽しい学校生活	100	97	99				
				・スマートルールを守る	80	79					
		いじめ未然防止	教職員	・いじめのない学校	100	100	96			<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館の小さなトラブルはあるが、その都度、担任が両者の話を聞き、解決を行っている。また、解決が難しい場合には、学年主任や生徒指導主事、管理職などでチームを作り解決をはかっている。児童間でトラブルが解決した後も、保護者に連絡をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童間でトラブルが起こった場合には今後も両者の話をしっかりと聞き、早期解決に努める。</li> <li>・未然防止のために、温かい集団づくりに関する学習を、道徳や学活で行っていく。</li> </ul>
				・人間関係に配慮	100	100	100				
			児童	・友達仲良く	100	97	97				
・いじめ不登校	100			90	90						
保護者	・学校の話をする		90	91	88						

令和2年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価総合シート

項目	重点目標	回答者	アンケート項目	目標指数	今年度	昨年度	成果と課題	改善策・向上策		
				1+2(%)	1+2(%)	1+2(%)				
3 健康な生活「元気な子」	「たくましい心と体」	体力づくりの推進	教職員	・体力向上	100	87	88	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年行っていた朝のインターバル走や業間マラソンを実施しなかった。その結果、反復横跳びや立ち幅跳びなどの瞬発力が低下してしまった。一方、体育の学習においてグーパー体操や柔軟体操を毎時間取り入れたことで、握力や柔軟性の向上が見られた。</li> <li>・体育委員会による企画で、低学年から体力テストの種目に触れさせることができた。</li> <li>・縄跳び大会やマラソン大会などからも、体力が低下した児童が見受けられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業やいきいきタイム、ペア学年で瞬発力を高める運動の充実を図ることで、瞬発力の向上を目指したい。</li> <li>・天気の良い日は外で遊ぶ機会を増やせるよう、外遊びを推奨していく。</li> <li>・体育委員会がなわとび教室を開くことで、悪天候でも体を動かせるようにしていきたい。</li> </ul>	
			児童	・進んで運動	90	94	98			
			保護者	・体を動かす	90	75	81			
		健康的な生活習慣	教職員	・早寝早起き	100	87	92	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝ご飯を食べるという習慣は家庭でも意識が高く、児童、学校、保護者それぞれが高い結果となった。</li> <li>・虫歯の治療率は前年度より上がっている。さらに養護教諭を中心とした家庭への働きかけをしていく。</li> <li>・学校での保健室来室や早退の件数が減ってきている。コロナ感染症対策が効果を上げていると考えられるので、今後も生徒指導と連携をして、感染症ルールも守って生活するように指導を継続していく。</li> <li>・早寝早起きの時間は児童と保護者の回答で結果の差が大きい。保護者が働きかけてもなかなか寝ない、起きない児童がいたり、習い事により遅くなったりしてしまう日があったりすると思われる。そのため、学校でも自分で早寝早起きをするように働きかけをしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員会や保健委員会による啓発運動などで、朝ご飯や早寝早起きを児童自身が意識し、実行できるように働きかけをしていく。また、意識が低い児童に対しては、個別指導も行っていく。</li> <li>・目の体操を給食終了後に全学年一斉で行っている。しかし、成果が視力検査に明確に表れるものではない。運動や学習につながる視力を向上させるために継続していきたい。</li> <li>・にこいきチェックを学期に一回行うことで、家庭と連携を取って良い生活習慣が身につくようにする。</li> <li>・保健ファイルを保健指導後に持ち帰り、学習内容を保護者と共有していく。</li> <li>・ゲームや動画を見る時間が長いようなので、ゲームや動画とのつきあい方を家庭と連携して改善していく。</li> </ul>	
				・食生活指導	100	83	92			
				・コロナ感染症対策	100	100				
			児童	・早寝早起き	95	90	89			
				・朝ごはん	100	98	99			
				・コロナ感染症予防	100	98				
	保護者	・早寝早起き	95	79	80					
		・朝ごはん	100	97	97					
		・コロナ感染症予防	100	96						
	4 開かれた学校づくり	「信頼される学校」	教育活動の発信・公開	教職員	・学校公開・行事	95	100	96	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事に関する指数は高い。コロナ禍により数々の行事が中止・縮小されたが、学校としては、児童・保護者の立場を考慮し、できる限りの工夫をしながら、できる限りの学校行事・学校公開に取り組んできた。保護者の指数が伸びていることから、学校側の姿勢が理解されていると考えられる。</li> <li>・情報発信についても高い数値を計している。学校ホームページは、昨年度初めて2万アクセスに達したが、今年度はすでに3万アクセスを超えている。学校からの配布物や連絡帳に目を通す保護者の割合も大きく伸びており、コロナ禍の中で、学校への関心が高まっていることが伺える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍はまだ続いており、来年度も通常通りの学校行事・学校公開の開催は難しい。しかし、保護者の要望が大きくなっていくことも予想されるため、「何のために」「誰のために」「何をすべきか」「何ができるか」をよく考えて、PTAと協力しながら、保護者の理解を得られるよう、より一層情報発信に努めたい。</li> </ul>
					・情報発信	100	100	100		
				保護者	・学校行事参加	90	93	91		
・情報発信			90		98	98				
・配布物			90		95	88				
地域の活用			教職員	・地域人材の活用	100	92	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は読み聞かせボランティアの活用ができなかったが、2学期以降は、クラブ活動やおしゃべりルーム、人権教室、珠算教室、芸術教育、水の学習、ユリの学習、薬物乱用防止教室、まち探検、障害者スポーツ講座、デジタル障害講座、スキー教室等々、たくさんの地域ボランティアの方々の協力を得ることができた。その都度、ホームページや学校だより等でお知らせすることで、保護者の認知度も高まったようである。</li> </ul>		
		保護者		・地域人材の活用	100	94	92			
		危機管理	教職員	・登下校の安全	100	100	100		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き集団下校を徹底し、月2回の登校指導と学期1～2回の集団下校指導も行っている。また、大雪のときには職員総出で除雪作業を行って通学路を確保したり、野生動物の出没や悪天候など、少しでも下校に危険が伴う恐れがあるときには、職員が同行するなどの対策を行ってきた成果が出ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、見守り隊や地域の方々との協力して登下校の見守り活動を継続していきたい。また、通学路の安全確保については、点検を行い、市への要望を引き続き行っていきたい。</li> </ul>
児童				・安全な集団登校	90	96	96			
保護者				・登下校の安全	100	91	87			